

地域と協同の 研究センターNEWS

2021年7月25日発行

203号

つながる・支え合う、みんなの子ども食堂 ～コロナ禍、私たちにできることを模索して～

杉崎 伊津子（わいわい子ども食堂プロジェクト 運営委員長）

ある日の夕方、次から次と子どもたちが二人、三人と連れだってその場所へ入っていく。

入口にはおいしそうな匂いがしている。ランドセルを背負って、母親と一緒に来ている子どももいる。みんなご飯を食べている。にぎやかな子どもの声が響いている。

調理や配膳の高齢の女性たち、お茶のサービスしている学生たち。食器の片づけをしているおじさんもいます。いろいろな人がいます。それが子ども食堂です。今は、コロナ禍でその場もありません。

2020年3月の突然の学校休校の措置にただただ驚くばかり。

コロナ感染の予防といっても、子どもたちの感染は極めて少ないのに、「なぜ、なぜ」と納得できない自分がいました。

当時、新型コロナウイルスの感染がさらに広がれば子ども食堂は「3密」の場所だから休止せざるを得ないと覚悟はしていましたが、休校が予想しない早さで始まって、使用している会場が医療機関の会議室では当然使用不可になりました。

運営責任者として、予告なしで休止することと、再開の日が示せないままの休止に心が痛み、食事に困るだろう子どもたちの顔も浮かびました。

これまでの利用者との信頼やつながり、ボランティアとのつながりがみんな喪失してしまうのではと不安が募りました。

こども食堂の開催予定日に休止を知らない子どもが来たらと、子どもでもすぐ食べられるレトルト食品や飲み物や果物を用意して待ちましたが、幸いにも大勢が来ることはありませんでした。

そして2週間ほどして学習支援のサポーターのLINEに『お腹がすいた。ごはん食べさせて』という連絡が来たと聞き、「子こども食堂をこのまま、休んでいいの?」「私たちはなぜ子ども食堂を始めたのか?」と問いが駆け巡りました。

【2頁につづく】

研究センター7月の活動

1日(木) 名市大寄付講義⑫ 三河地域懇談会「豊橋生協会館に寄らまいかん」 オンラインミニ企画第3弾	10日(土) おたがいさま2040研究会報告書刊行記念オンライン企画第1回
2日(金) 協同の未来塾① 2021 国際協同組合デー記念行事 in 愛知	15日(木) 名市大寄付講義⑭
3日(土) 共同購入事業マイスターコース①	17日(土) 東海交流フォーラム実行委員会、第2回理事会
6日(火) 三河地域懇談会世話人会	22日(木) 名市大寄付講義⑮
8日(木) 名市大寄付講義⑬	24日(土) おたがいさま2040研究会報告書刊行記念オンライン企画第2回
9日(金) 第2回常任理事会 第5期研究奨励助成報告会	25日(日) サードセクター研究会
	29日(木) 協同の未来塾②
	30日(金) 生協の(未来の)あり方研究会 三河地域懇談会生協総研公開研究会「改めて戦後日本の生協史をまなぶ」
	31日(土) 友愛・協同セミナー2021

※ 各行事は新型コロナウイルス感染対策をとって実施しています。

目次	つながる・支え合う、みんなの子ども食堂	1	難民食料支援と私たちの暮らし	羽田野真帆	4
	杉崎伊津子		情報クリップ		5
	難民食料支援学習会 概要報告	3	書籍紹介・企画案内		8

<巻頭言：1頁よりつづく>

「お腹がすいた。」の声はショックで、焦る気持ちで、部屋が使用できないなら屋外でと、やや強引にも駐車場を借りて「青空食堂」を実施しました。

感染が広がる中で、あいち子ども食堂ネットワークでも「何ができるか？」を議論して「一緒に食べること」ができないなら、それならフードパントリーをやってみようとして初めての取り組みに動き始めました。

3月29日9か所の子ども食堂が、準備期間もない中でしたが実施できることになり、多数の企業の協力も得て、初めてのフードパントリーが、メディアにも大きく取り上げられ、広くアピールすることができました。その後、各子ども食堂によるフードパントリーが盛んに行われるようになり、多くの子ども食堂が創意工夫をしてこの1年4ヵ月間、少ない自前の資金で弁当配布や食料配付を継続しています。この間の各子ども食堂の主体的で創意ある活動の取り組みは、まさに草の根から始まった市民の手による、自分たちでできることを模索した活動でした。

フードパントリー利用者に聞き取りをすると「感謝の言葉」とともに、暮らしづらさなども語られ、たとえ月に1回でも、弁当や食料品を待っている人が確実にいることに気づかされました。

この活動に対しても「ほんとうに困っている人に配付すべきだ」などの批判もありましたが、子ども食堂は食事提供時でも利用者の選別をしていません。扉をあけた人を黙って受け入れ、ご飯を食べてもらう場所です。もちろん運営者は貧困問題に大いに関心を持っている人たちですが、貧困層だけを相手にしているわけではありません。

「貧困家庭の子どもに限定」したら、そこはかえって「行きにくい場所」になってしまのではないかと思います。公的機関が実施する場合は個人情報をもとにそれなりのルールで、選別は可能でしょう。

民間での地域活動の特徴は「緩やかさ」にあると思います。

「ごちゃ混ぜの世界」で「多彩な色」があるところこそ、だれにとっても居心地がいい場所になるのではと考えています。もちろん、そのスタイルを決めるのは各子ども食堂の主体性です。

子ども食堂が、大切にしているのが「主体性」「自発性」「多様性」「地域性」の四つの柱です。一切の上下関係はなく、子ども食堂をやりたい人がやれる形で、みんなでご飯を食べる場所を提供することが主たる目的です。「子どもが一人で安心して入れる食堂」です。

この緩やかさが何よりも魅力となって、コロナ禍でも子ども食堂は増えて、ついに5000カ所を超えました。全国の児童館4000カ所を超える数になりました。

多様な人と出会えて、おいしいご飯がある。何かを強制されるようなこともなく、いつものように知った顔がいる。そんな安心の居場所はこれまでなかなかありませんでした。

先に発表された「子ども・若者白書」では、多くの居場所を持っている子どもの方が居場所の少ない子どもより、より前向きに物事をとらえ、自己肯定感も強いと分析しています。

コロナ禍で子ども食堂が休止していることは感染のリスクよりも、居場所がなくなったリスクの方が大きいという声も聞きます。

ゴリラなどの研究者、京都大学の山際学長は会食について「分散して食べる猿などと違い、人間にとって食事は人と人をつなぐ接着材となり、新しい友達をつくったり、憩いのときになっていた。人間関係をスムーズに動かすための装置だった。何とか工夫してその機能を持続させないといけない。感染を防ぐ対策しつつ、食事の席を失わないように」と、あるインタビューで話されています。

誰も想定していなかったコロナ禍を生き抜くために、分断・孤立ではなく、つながって、支え合うことを模索して、誰もが人間らしく生きられる社会へ少しでも前進したいものです。

(すぎざき いつこ)

はじめの一步の学びと交流ができました。これからも食料支援に取り組めます！

難民食料支援学習会 概要報告

6月19日に、「難民食料支援学習会～なぜ今緊急食料支援が必要なのか」学習会を開催しました。参加者は、生協生活文化会館（名古屋）会場参加12名、豊橋生協会館会場参加9名、オンライン参加45名でした。当日寄せられた食品は157品目、寄付は1万1千円となりました。

学習の中では、ウガンダ出身の女性で10年近く申請を続けてやっと難民認定をされた方の事例もお聞きすることができました。詳しい資料をご希望の方は事務局までご一報ください。

主催：NPO名古屋難民支援室、アジア・ボランティア・ネットワーク・東海、地域と協同の研究センター

協力：生活協同組合コープあいち

助成：三菱財団×中央共同募金会

文責：伊藤小友美（事務局）

①あいさつ・趣旨説明 3つの主催団体でオンライン会議を重ね、まずは食料支援を行ってみました。国の中では、この2月に入管法改正案が閣議決定しましたが、3月に名古屋入管でスリランカ女性の死亡事件が起き、廃案となりました。市民社会として何ができるのか考え合いたい。

②活動報告 4月14日～17日に緊急食料支援第1弾として、食料品（常温保存可能で未開封のもの）を生協生活文化会館の研究センター事務所で集めました。50人を越す方々の協力があり、缶詰、レトルト食品、飲料、菓子等、食料120品目、247点、お米は59kg、寄付金も35,233円お寄せいただきました。今回は、直接困っている方のお宅へ宅急便でお届けすることになり、仕分け・箱詰め・発送作業をするためのボランティアを募ったところ、7人の方の参加があり、当日は ①物資搬入 ②仕分け（主食系、副食系、菓子・嗜好品等）③箱詰めを行いました。担当の支援先（の箱）を決めて、食料を分けましたが、家族構成等の情報に思いを寄せ、顔を思い浮かべながら食品を箱に詰めました。3密にも気をつけ、感染予防に務めました。難民の方は、逃れた先の国、日本でも命を狙われていることがあります。例えば、日本であっても、出身地域が近い人達の集まりがある際には、いったん自分の飲み物から目を離したら、もう口にしないように気を付けている（毒を盛られるなどのリスクを回避するため）方もいるし、情報を探られていたり、実際に日本で警察が定期的に自宅付近を巡回していたりするケースもあり、今回食料を送る方の中にも、そういう方々が含まれます。個人情報に触れるのは事務局ひとりに限定をして、お届け先の情報は慎重に扱いました。それぞれの箱には、心をこめたメッセージも添えました。翌日には、「届いたよ！ありがとうございます！」と写真とともにメールが届きました。

③交流 参加者3～4人のグループに分かれ、感想を交流しました。

④学習 難民について学びました。次の4つの条件を満たす場合、難民条約（日本は1981年に加入）で難民として保護されることが決められています。①出身国の外にいる。②迫害を受ける恐れがあるという十分に理由のある恐怖を有する。③その恐怖は、人種、宗教、国籍若しくは特定の社会的集団の構成員であること又は政治的意見を理由としている。④出身国の保護を受けることができない、又は③のような恐怖を有するためにそれを望まない。このような方は、日本で安易に同国出身の人を頼ることができません。出身国政府から迫害を受けているため、正規のパスポートを発行されない場合もありますが、日本での難民不認定理由に、「正規の旅券が発行されているため難民とは言えない」「大使館に行くことができると言っているため難民ではない」などと書かれることもあります。入管施設では、4～6人が相部屋で生活。携帯電話等の通信機器は持ち込み禁止。退去強制手続が行われている人に対しては昼夜関係なく強制送還されることがあります（強制送還中の死亡事故も発生している）。体調不良でも同じ薬（痛み止め）ばかり処方され、外部の病院での検査や診察に中々行かせてもらえない上に、外部の病院にかかる場合は手錠・腰縄をつけられます。仮放免申請には保証人と保証金（300万円以下）が必要だが、これらを用意しても許可されず、長期の収容が増加傾向にあります。収容施設でのハンスト、収容者の自殺や自殺未遂、死亡も発生しています。迫害から必死で逃げてやってきた難民が、日本でも犯罪者のように扱われ、心身の健康を損なっているのが現状です。また、コロナウイルス感染拡大防止で3密を避けるために仮放免されている方は、住むところもなく働くこともできないので、支援者に頼るしかない状況です。

⑤質疑応答 交流 まとめ 参加者から質問も出され、交流をしました。

※多くの参加者から「知らないことばかりだった」「はじめの一步を踏み出せた」との声が寄せられました。

難民食料支援と私たちの暮らし

羽田野真帆（NPO 法人名古屋難民支援室）

前半では、私が難民支援に関わるようになった背景をお伝えします。私は小学生の頃、親の仕事の都合で、3年間米国で暮らしました。その際に現地校に通っていたのですが、そこには、様々な人種や国籍の方、さらには障がいを持った方も同じクラスで学びあう環境があり、多様性の中の一人として、自身を認識し、それが心地よかったのを覚えています。また、パレスチナ出身の友人がいたのですが、その友人は今思えば難民として米国に逃れ、暮らしていたのかもしれませんが。そのような経験を経て、帰国し、高校を卒業するタイミングで就きたい職業について考えたとき、国連難民高等弁務官として活躍された緒方貞子さんへの尊敬の念があったことと、人と接することが好きだったので、難民支援を志しました。しかし、大学入学後しばらくするまで、私の抱いていた難民支援のイメージは、海外の難民キャンプでの支援活動でした。日本にも難民が逃れてきていることを最初に知ったのは、大学のボランティアサークルの活動で知り合った、ビルマの民主化を支援していた日本人の方に、ビルマ難民の方を紹介していただいたことがきっかけでした。そのビルマ難民の方から、母国での大変な状況と、日本では難民として認定されることがとても難しい実態をお聞きし、日本で難民認定されたことに対し、「おめでとうございます」と私が言ったところ、「おめでたいことではないですよ。難民になって嬉しい人は誰もいません」とその方が仰ったことは、今でも心に残っています。それ以降、まずは、もっと東海地域に暮らす難民について知りたいと思い、講演会に参加したり、ネットで調べたりしました。大学2年生の冬からは、ある講演会で証言をした難民の方たちを対象に、講演会参加者の方たちと共に日本語教室をはじめました。やがて、日本語教室の学習者との信頼関係ができてくると、難民申請手続きのための資料の翻訳や、弁護士との打ち合わせの通訳を依頼されるようになりました。そのような経験を経て、東海地域の難民を支援できる体制を整える必要性を感じていた時に、名古屋難民支援室設立の話を聞き、スタッフに応募し、現在に至ります。2012年7月に名古屋難民支援室が開設されましたので、スタッフになって9年が経ちました。

後半では、難民支援と私たちの暮らしの関係について考えを述べたいと思います。まず、6月19日の難民食料支援学習会にご参加いただいた皆様、ありがとうございました。そして、第一弾及び学習会と同時開催した緊急食料支援にご協力いただいた皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。今回皆様に食料支援にご協力いただいたことは、単に困窮する難民の方々のお腹を満たすだけでなく、緊急支援を迅速に行うことを可能とし、それは、難民申請手続き等の長期的な支援へとつながり、難民の方たちの法的地位の安定、ひいては経済や社会的な権利の保障へとつながります。また、皆様に食料支援をきっかけに、難民を通して見える日本社会の課題と一緒に取り組んでいただくことにもつながると考えています。例えば、今年の2月に閣議決定した、難民保護の観点から重大な問題がある入管法改定法案は、3月に名古屋入管で亡くなったスリランカ出身の女性の死亡事件の真相を政府・法務省・入管庁が隠蔽したことが、法案審議で明らかになったことが要因となり、多くの市民の反対を基に、5月に成立が見送られました。法案が難民や外国人の問題に限定されるものではなく、私たちの問題であり、私たちがどういう社会で暮らしたいかが問われているのだと、一人ひとりが確信した結果であると考えています。私が難民支援を志したきっかけは、目の前の困っている難民の方の力になりたいという思いでした。しかし、日本に逃れてきた難民の方と関わる中で、最近は難民の方々を通して日本社会の在り方について考えることが多くなりました。難民の方一人ひとりは、迫害から逃れ、日本でも「二重の迫害」とも表現される通り、法的地位が不安定で精神的に追い詰められながらも、強く生き延びている、とても生きる力のある方たちだと思っていますが、社会的には弱者です。難民という社会的弱者を通して見える日本社会の課題の解決に取り組むことは、誰もが自分らしく生きることが出来る優しい社会を自分たちの手でつくっていくことにつながると考えています。

（はだの まほ）

情報クリップ



co-opnavi 2021. 7 No. 830

学生や新社会人を支えるCO・OP共済 若年層の保障が大幅に充実

日本生活協同組合連合会 2021 年 7 月 A 4 判 36 頁 367 円 (税込)

コープ商品のある風景

CO・OP大豆ドライパック

おかやまコープ

井笠エリア エリア委員長 山本佳子さん

特集

学生や新社会人を支えるCO・OP共済

若年層の保障が大幅に充実

今日も笑顔のコープさん 生協の仲間のお仕事拝見

生活クラブ風の村 森谷恵里さん

想いをかたちにコープ商品

CO・OP種抜きデザート

生協大好きママ コブ山さんの 教えて！CO・OP商品

CO・OPグリーンスムージー

CO・OPグリーンスムージー カロリーハーフ

コープ商品・虫の目チェック！

フリーズドライ商品の真空凍結乾燥技術

ZOOM IN 生協の店舗づくり

コープかがわ コープ牟礼
日本全国宅配現場におじゃまします！

パルシステム神奈川

生協の仲間づくりのいま

いわて生協

SDGs REPORT

みやぎ生協・コープふくしま

明日の暮らし ささえあうCO・OP共済

とくしま生協

この人に聴きたい

教育方法学研究者 渡辺貴裕さん

ホットnavi

福井県民生協／日本生協連

月刊JA 2021. 7 vol. 797

第 29 回 JA 全国大会に向けて④

全国農業協同組合中央会 2021 年 7 月 A 4 判 48 頁 年間予約 5,204 円 (税込)

特集

第 29 回 JA 全国大会に向けて ④

ーコロナ禍の生活者の変化と

コミュニケーションのポイント

林 哲也

スゴイ農業、スゴイJA

JA 自己改革の現場から

加入から参画までつながり

状況に応じた准組合員への重層的対応

ーJA いるま野（埼玉県）の取り組み

西井賢悟

きずな春秋 ―協同のこころ―

童門冬二

展望 JA の進むべき道

令和 2 年度第 5 回 JA 営農指導実践全国大会を終えて

脇岡弘典（JA 全中常務理事）

協同組合の理解促進に向けて

第 4 回 協同組合を理解する下地をどうつくるか

ー地域づくりを学ぶ大学生の姿から

図司直也

私のオピニオン ①

磯田道史

JA 全中マンスリーレポート 6 月

協同組合とSDGs 第 26 回

農林中央金庫のサステナブル経営

農林中央金庫

協同組合の広場

（日本生協連、JF 全漁連、全森連、ワーカーズコープ）

私のオピニオン ②

渡邊享子

海外だより [D.C. 通信] 連載 121

“ウイルス”の脅威

伊澤 岳

第 34 回 広報活動優良JA 紹介

総合の部 準大賞 JA えちご上越（新潟県）

トピック

第 71 回 “社会を明るくする運動” が推進する

ー生きづらさを包み込むコミュニティづくり

法務省保護局更生保護振興課

生活協同組合研究 2021. 7 VOL. 546**新型コロナウイルス感染拡大前後の食生活の変化**

公益財団法人 生協総合研究所 2021 年 7 月 B5 判 64 頁 定価 550 円 (税込み)

■ 巻頭言

巣ごもり生活と「孤食」と「共食」 天野恵美子
特集

新型コロナウイルス感染拡大前後の食生活の変化
変わりつつある生協の組合員像

ーコロナで加速する変化ー 宮崎達郎

生協宅配の利用者の利用満足度と利用継続意向

ー「生協・コープの利用に関する

アンケート調査」の結果からー 中村由香

新型コロナウイルス感染下における

組合員の生活変化について 川崎正隆

「家計調査」からみる

COVID-19 感染拡大下での食動向 重川純子

■ 研究と調査

学校給食の今日的意義と地場食材利用 山田浩子

■ 本誌特集を読んで (2021・5)

福地庸之・川口啓明

■ 新刊紹介

パルシステム東京創立 50 周年記念文集

『つなぐ想い ～いま、のこしたい物語～』

鈴木 岳

● 生協総研賞「第 19 回助成事業」の応募要領 (抄)
(7/31 締切)

● 第 30 回全国研究集会 (11 月 2 日) 開催予告

● 2021 年度開催公開研究会 (7 月～8 月)

・「消費生活協同組合の日」の登録を記念して (7/30)

・健康でありたいという願いによりそって (8/27)

文化連情報 2021. 7 No. 520**2020 年度農業白書を読む ーコロナ禍の下でー**

日本文化厚生農業協同組合連合会 2021 年 7 月 B5 判 88 頁 文化連情報編集部 03-3370-2529 *注

放射線機器の保守適正化めざし

CT 管球の寿命改善・価格引き下げへ

～15 厚生連理事長が連名で共同のメーカー要請活動～

佐藤 潔

院長インタビュー (328)

地域を自分の体のように感じて、

農民・住民と一体となる医療を 朔 哲洋

2020 年度農業白書を読む ーコロナ禍の下でー

田代洋一

徹底解説！みんなで学ぶ農協福祉事業

WEB 道場実況中継①

LIFE から始まる“科学的介護”にどう対応するか
二木教授の医療時評 (192)

厚生労働省が用いる「長瀬式」「長瀬効果」の

出自を調べ信頼性を評価する 二木 立

厚生連全国共同購入委員会臨時総会 (医薬品・医療材料)

医薬品・材料の全国共同購入への参加呼びかけを決議

農のある暮らしから水害と治水を捉えなおす (3)

なぜその土地に大水害が発生したか

川妻干将

アメリカの医療政策動向 (12)

アメリカ家族計画の概要

および政権発足後の医療政策 高山一夫

変わる日本のまちづくり (13)

日本版 CCRC のモデル

社会福祉法人佛子園のまちづくり

杉岡直人 ・ 畠山明子

ドイツの対 COVID-19 戦略

感染の急減と、夏のバカンス対策

吉田恵子

私たちは何を食べているのか (9)

ゲノム編集トマトと「みどりの食料システム戦略」

安田節子

多様な福祉レジームと海外人材 (38)

経済連携協定 (EPA) による介護従事者の動向②

安里和晃

臨床倫理メディスン (53)

日本の予防接種政策におけるリスクと責任 (3)

ー予防接種をめぐる経済的課題 中西淑美

全国統一献立

三重県の郷土料理 天巻き

中原さおり

アフガニスタンから見た世界と日本 (14)

人権を無視した日本の在留資格制度、

その崩壊がもたらしているのか

レシャード カレッド

デンマーク & 世界の地域居住 (145)

複数組織の合併で生まれた福祉組織

「ウェルザイン・レリストット」 松岡洋子

熱帯の自然誌 (64)

サバの交通機関

安間繁樹

◆ 農協福祉事業「WEB 道場」開催のお知らせ

◆ 第 39 回厚生連薬剤師研修会 開催のご案内

□ 自著を語る

患者と医療従事者の権利保障に基づく医療制度

／岡田行雄

▼ 線路は続く (153)

筑紫平野の里を結ぶ甘木鉄道

／西出健史

▼ 最近見た映画

ローズメイカー 奇跡のバラ

／菅原育子

▼ 虹のかけ橋 ー新宿農協だよりー

にじ 2021 夏号 No. 676

労働者協同組合法と協同組合ネットワークの再構築

一般社団法人日本協同組合連携機構 2021 年 6 月 B5 判 88 頁 1100 円 (税込)

オピニオン

○労働者協同組合法の成立と

農村女性ワーカーズ報告書
北川太一 (摂南大学農学部 教授)

特集企画

労働者協同組合法と協同組合ネットワークの再構築

○特集解題

労働者協同組合法と協同組合ネットワークの再構築
ー協同労働の地域的展開にむけて
大高研道 (明治大学政治経済学部 教授)

○労働者協同組合法制定と

協同組合ネットワークに期待すること
協同の文化を深め広げ、
みんなの「公共」を再構築する「協同労働」
古村伸宏 (日本労働者協同組合連合会 理事長)

○労働者協同組合と信用金庫 ー協同の協同ー

吉原 毅 (城南信用金庫 名誉顧問)

○労働者協同組合法の成立と労働金庫との連携の可能性

関山 順 (前・全国労働金庫協会 専任参事兼政策調査室室長)

○労働者協同組合法の成立と生活協同組合からの期待

伊藤治郎 (日本生活協同組合連合会 執行役員 渉外広報本部長)

○森林組合による森林の保全・利用の取組と

ワーカーズコープとの連携の可能性

早瀬悟史 (全国森林組合連合会 組織部林政・指導課 担当課長)

○JA と労働者協同組合との連携に期待すること

ー協同組合ネットワークの目指すものー
岩堀義一 (神奈川県農業協同組合中央会 JA 改革対策部 部長)

【連載】コロナ危機をどう克服するか

○連載解題 コロナ危機をどう克服するか

北川太一 (摂南大学農学部 教授)

○コロナ禍にいかにか立ち向かうか

ー地域経済学と自治体論の視点からー
岡田知弘 (京都橘経済大学 教授)

【書評】

○林英俊著

『共販組織とボトムアップ型産地技術マネジメント』
2019 年 (筑波書房)

西井健悟 (日本協同組合連携機構 主任研究員)

○早尻正宏・守友裕一編著

『地域の再生と多元的経済 ー

イギリスのサードセクターと社会的企業に学ぶー』

2021 年 (北海学園大学出版会)

関司直也 (法政大学現代福祉学部 教授)

協同のひろば／編集後記

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています (主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

書籍紹介

「生協の（未来の）あり方研究会」共著書籍のご紹介

地域と協同の研究センターでは、2009年5月31日に「生協の（未来の）あり方研究会」を設置しました。研究センター会員である研究者、東海地域の非営利協同組織や生協の実務家等が参加し定例研究会を積み重ね、これまでに2冊の共著を発行しています。今回あらためてご紹介いたします。これからの生協のあり方を展望する一助としてぜひ購読ください！研究センターに申し込いただければ郵送でお届けいたします。

**未来を拓く協同の社会システム**

編者：小木曾洋司 向井清史 兼子厚之

出版社：日本経済評論社 定価：本体 3,200 円＋税

発行日：2013 年 10 月 1 日

第一次共著

激変する社会経済にあって、格差拡大や地域崩壊が現実のものとなり、協同組織としての生協とその役割が問われている。新たな展開を可能とする生協運動のあり方を考える。

地域と協同の研究センターで共同購読いただけます。

地域と協同の研究センター共同購読価格 2,816 円

(本体 2,560 円＋税)

**協同による社会デザイン**

編者：小木曾洋司 向井清史 兼子厚之

出版社：日本経済評論社 定価：本体 3,600 円＋税

発行日：2019 年 4 月 25 日

第二次共著

「だれ一人取り残さない社会」(国連の目標 SDGs の理念)は、どのようにすれば実現できるのか。そのために生協はいかなる貢献ができ、そしてどう変わらなければならないのか。

地域と協同の研究センターで共同購読いただけます。

地域と協同の研究センター共同購読価格 3,168 円

(本体 2,880 円＋税)

共同購読申込は、地域と協同の研究センターへ電話・FAX・E-mail 等で直接申込ください。

地域と協同の研究センター8月の予定

7日(土) 共同購入事業マイスターコース②

26日(木) 協同の未来塾③

18日(水) 協同組合役職員学習会「協同組合間協同を考える」

28日(土) 愛知県立大学地域連携センター公開講座

21日(土) 三河地域懇談会世話人会

友愛・協同セミナー

※企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期することがあります。ご参加の前にホームページ等でご確認ください。

地域と協同の研究センターNEWS 第203号

発行日 2021 年 7 月 25 日 定価 200 円 (税・送料込み)

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 鈴木 稔彦

〒464-0824 名古屋市中種区稲舟通1-39 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>